

2001年5月15日発行

YEZO DEER ASSOCIATION
(社)エゾシカ協会



News Letter No.7

事務局:〒061-0212 北海道石狩郡当別町字金沢 166-8 電話:01332-5-5533 FAX:01332-2-3013 Email:ida@gallagherage.co.jp

ハイタワー調査報告



北海道からの委託事業「平成12年度次世代型エゾシカ捕獲システム調査業務」が終了し、3月末、道庁に報告書を提出しました。計4頭を捕獲し、ハイタワーを使った捕獲の有効性と問題点が浮き彫りになりました。

音別町 調査期間:10月20日~2月28日(10月中は捕獲自粛)

当初はビートパルプより圧片ウモロコシの餌によくつきましたが、次第に利用されなくなり、捕獲には到りませんでした。地元ハンターの情報では、タワー周辺でシカを捕獲したハンターがいるようで、残滓にクマがつき、シカが移動してしまっただけです。立ち入り制限の看板を設置しましたが、遵守してもらえませんでした。

白糠町 調査期間:11月20日~2月28日

餌としては、牧草ロール、ハイキューブ、鉱塩も置いてみましたが、圧片ウモロコシが一番好まれているようで

した。シカが完全に餌付いた後、計7日の捕獲調査を行い、3頭を捕獲しました。その時の目撃頭数・発砲数・捕獲頭数・半矢数・捕獲後再出没时间の頭数などのデータも採取しました。出没时间は夜間が多いので、自動餌散布機を餌場に設置しましたが、低温の為か機械がうまく作動しませんでした。

西興部村 調査期間:11月17日~2月15日+2月25日

牧草ロールと鉱塩は日常的に利用されているようでした。2月25日は昼間2頭が出没し、タワーから1頭を捕獲しました。



捕獲個体No1(白糠)

News Letter No. 7

エゾシカ TOPIC

①ハイタワー調査報告

②高速道路とエゾシカとの共生

③「エゾシカの保全と管理に関する研究」報告書

④ディアハンターになろう!

会員ひろば 「エゾシカ猟随想」伊東昭二会員

部会だより A.西興部で部会/B.技術開発小委員会報告

エゾシカ ニュース・クリップ

エゾシカ グルメ・インフォメーション

平成13年度総会のご案内

事務局だより ・マニュアル類を道庁と検討・配布ほか

ハイタワー調査報告

捕獲効率

計4頭(3頭がライフル銃、1頭が散弾銃使用)を捕獲しましたが、散弾銃を用いた2頭は半矢となり、回収できませんでした。射程は100メートル前後であったため、これが散弾銃の距離的な限界を示している可能性があり、距離が100メートルを越すハイタワーでは、ライフル銃を使用すべきと考えられました。

ハイタワーの使用感・構造

ハイタワーで捕獲したハンターに使用感を尋ねたところ、

- ① 上方からシカの群れを見ることができるため、頭数や性、齢段階を確実に把握できる
- ② 個体ごとの位置関係が判断しやすく、目標個体以外のシカの被弾を防止できる
- ③ 撃ち下げの射撃になるため、貫通弾は地面に着弾し、安全性が高い
- ④ ハイタワーの枠にポールなどを据え付ければ、射撃方向も制限でき、安全性が高まる
- ⑤ ハイタワーの枠を利用することで、銃と身体が固定され、安定した射撃ができる
- ⑥ 金属製のため、登るときや射撃準備の際に出る音が気になる
- ⑦ 風防や天蓋などがあれば、より快適な待機・射撃が可能

—などと、概ね良好な回答でした。④、⑥、⑦を参考に改良を加えていくことが望まれます。

設置場所

今回の設置場所はいずれも日常的にシカが利用しているため、餌による誘引効果が比較的早く現れました。

場所の選定には、シカの生息状況に詳しい地元のハンターのアドバイスを参考に、綿密な事前調査が必要と思われます。

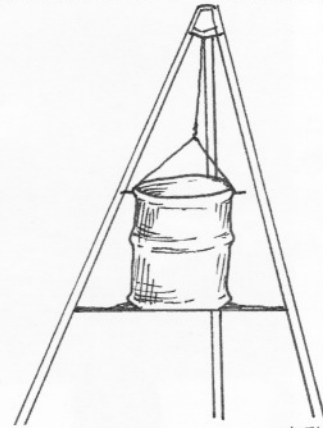


ハンガリーのハイタワー

餌による誘引効果

牧草やサイレージの誘引効果がヘイキューブや鉱塩に比べて強い傾向が見られました。調査地域ではシカがこれらを日常的に食べているとみられ、これらの常食を餌として設置する方が効果的と思われます(なお、常食を餌にする場合、地域的な被害作物などとの関連性を整理する必要があります)。

また、出現が多く確認できたのは夜間だったので、昼間の狩猟を可能にするために米国で使われている「自動餌散布機」で、シカの出現時間帯を変える実験も行いましたが、低温下でうまく作動せず、今後はバッテリーを強化させるなどの対策が必要とみられます。



自動餌散布機

出現状況

いったん捕獲されてからもほぼ2日以内で餌場への出現が確認されたことから、同一場所でのハイタワーの連続利用が可能であることがわかりました。早いものでは捕獲後数時間内に出現する場合もあり、条件さえ整えば連日の利用も可能とみられます。

今後の課題

1) 狩猟として考えた場合

音別・西興部では、不特定のハンターによって調査目的以外の捕獲が行われてしまいました。可猟地域内のため違反ではないのですが、今後は現行の鳥獣保護法において、明確な立ち入り禁止の措置が取れる「猟区」などの管理型捕獲システムの設定と併用することが必要と思われます。

2) 駆除を考えた場合

ハイタワー方式ではシカに人間の行動を察知されにくいメリットがあり、効果的に捕獲できる場所に設置すれば、駆除者の負担を軽減できると考えられます。

トピック

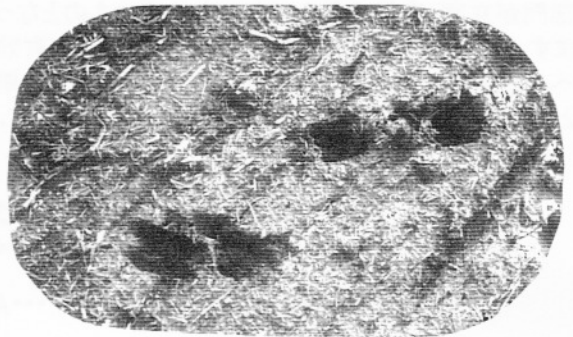
高速道路とエゾシカとの共生

昨年10月より始まったJHからの委託事業、北海道横断自動車道 占冠～清水間大型哺乳類生息調査が2月3日で終了し、報告書を提出しました。動物と車両との衝突事故を防ぐ一方、シカやクマが生息する自然も生かしながらの高速道路設計が検討されています。当協会では、JH関係者とともに高速道路建設予定地付近のエゾシカやヒグマなどの移動路、生息・分布状況を調査し、動物の移動を妨げないような侵入防止策を協議していきます。調査の内容としては：

- ・エゾシカの生息状況／増加の原因と分布、生活史
- ・高速道路の現況／時間帯や道路構造別によるシカ出没・事故発生状況
- ・北海道によるエゾシカの被害対策
- ・ヒグマの分布と移動

などがあり、①現地調査 ②ハンターなどへの聞き取り調査 ③関連資料調査および整理 ④報告書作成 —などの業務を行いました。

今後、道東道は釧路と北見方面に向かって計画されており、エゾシカ・ヒグマの分布の核心部付近を通過します。交通と自然との共生を考慮した対策が、益々重要になると考えられます。



上：高速道路予定地のエゾシカ等生息調査
下：現場に残されたシカの足跡

会員ひろば

エゾシカ猟随想

上士幌町 伊東昭二会員

「地元ゲームがいなくなると狩猟の楽しみがなくなる。」

「我々は国の鹿対策や有害鳥獣駆除に協力しているのだ。山を歩かもしない鹿なんて論外だ。町内に鹿がいなければ居る所へ行けばいい。」年よりのハンターに、毎年数百頭の鹿を獲るセミプロ猟師は反論した。

たしかに雌鹿が解禁になった三年前は、十一月の湿雪と好天に恵まれ、鹿猟には絶好の条件が整った。山では大雪で多くの鹿が餓死していた。川筋まで下りられた鹿はさらに人家近くまで下って、落葉松の皮をかじって飢えを凌いでいた。

ところが、「鹿対策」の捕獲報奨金もあって、「こうして、里鹿も根こそぎ獲り尽くされた。広い畑をスノーモビルや車で鹿と競走したのは、今は遠い過去の夢である。」

「毎日山へ行って運動しているのは車だけだ。」そう自嘲しながら昨猟期の私は、パウの半減した心臓で、二時間ハンターに徹してきた。今冬は私の記憶にある内では一番の大雪で、十数年ぶりにスキーを履いてみた。雪の感触や木の芽の表情が懐かかった。大鹿の気配に心地よい緊張感が走る。「いたー」。次の瞬間、委託しようとしたストックがコトリと倒れて鹿に走られてしまった。

それから数日して知り合いと出猟した。珍しく林道脇に足跡がある。彼がスキーを履いたので、私もスキーで歩き出した。三十分ほど進むとこのんびり食事中の大鹿がいた。先日の轍を踏まぬように、150mほど先の大鹿に7ミリオ8アックレイの引き金を引いた。鹿は五尖の角を横たえ、先ほど立っていたままの足形で行儀良くお座りをしていた。獲物があると頼もほころび、心臓さんもこ機嫌だ。猟師冥利に尽きる心地である。

【金色の落葉松山に分け入りて鹿狩りせず写真を撮る】
今年の山行はこんな駄句を並べながら楽しんで来た。貧弱でも楽しく思い出の多い猟期であった。



エゾシカ TopiC

「エゾシカの保全と管理に関する研究」 報告書まとまる

毎年、北海道庁がエゾシカの保護管理に関する方針を決定するための鹿の捕獲数、農林業被害、ライトセンサス、ヘリコプター調査、交通事故発生などのデータの解析は、「北海道環境科学センター」を中心に進められています。それと同時に、科学技術庁の重点研究として、「エゾシカの保全と管理に関する研究」が、1995～2000年の5か年間で、同センターを含む道立の8つの試験場を中心に実施されており、この度、報告書がまとめられました。

内容は専門家にとって有益であるほか、昨年、環境省により定められた「特定鳥獣保護管理指針」を各県の担当部門が立案・実施する上でも大変役立つものとなっています。当協会のこれまでの取り組みも「エゾシカ有効活用への道」として同報告書に収められており、今後、単行本としてとりまとめられ、出版される話も進んでいます。

エゾシカ TopiC

ディアハンターになろう！

鹿猟に限らず狩猟を始めたいと思っている方、今年の猟期に間に合わせるには、警察で行われる6月、遅くとも7月の「猟銃所持許可講習」を受講しておく必要があります。引続き射撃教習、狩猟免許のための講習とテスト合格が必要で、免許申請が受理されるまでに3～4ヶ月かかってしまうためです。

費用はこれらの受講料、射撃講習(4万円)などで6～7万円、狩猟免許1万円、そのほか、銃(7万円～)と狩猟用品、ガンロッカー(3万円)など、合わせて最低30万円程度が目安となります。

ハンティング、特に鹿猟は最高のスポーツであるほか、エゾシカの個体数調整、エゾシカ肉の有効活用に役立ちます。ディアハンターを目指す方は、お近くの銃砲店または警察署に、講習についてお問合せ下さい。



《《部会だより》》

A(保護管理)部会報告……………A部会事務局 井田 宏之

2月24日西興部村でA(保護管理)部会を行いましたので報告します。

北海道の保護管理計画の目標として頭数レベルを25%(20万頭×0.25=5万頭:道東)に設定しています。この目標が現実に達成できるかどうかは別にして、達成された場合、鹿猟の成果は減少することが予想されます。現実に今年の猟期でも、地域によっては減少しているように聞いています。そうすると、現行の自由型狩猟形態では、適正なポピュレーションコントロール(以下PC)は系統的に不可能と考えられます。

適正なPCを実行する一つのメニューとして猟区があります。猟区とは、地主の了解の下で管理型捕獲が出来るシステムで、法的な整備がされています。今回の部会では、猟区システムの北海道への新たな導入の可能性について論議しました。

■内容

- ①具体的な地区を2ヶ所程度選定してシュミレーションを行う。選定条件としては、地権者の了解・地元猟友会の協力・地元市町村の支援が得られる場所を優先する。
- ②今年の猟期にガイドつきハンティングツアーをモデル的に実施し、アンケートをとる。
- ③存続している岩手県の猟区を視察する。
- ④今後の検討はA部会会員にとどめず、ワーキンググループを作って実行する。

【井田の独り言】

猟区システムシュミレーションは、小さな試みですが、エゾシカ協会の目指す目標がすべて包括されています。スコットランドでは、生息頭数約30万頭の25%を持続的に捕獲しています。このレベルで農林業被害・交通事故等の諸問題をクリアし、社会的コンセンサスを受け、経済的にも持続可能なシステムを構築しています。猟区シュミレーションは、「スコットランドへの道」の一步にしたいと思っています。なぜスコットランドでは、可能か?…答えは簡単、スコットランドではシカ協会が生息頭数調査から有効活用・PCすべてをコントロールしているからです。ちなみにスコットランド州政府の予算は、約8000万円。農林業被害・交通事故のことを考えたら北海道庁も考えてもらえないでしょうか。エコツアー等も含めると200億円以上の経済効果があるのですから。北海道の自主・自立に向けての有力な資源になります。関係者の皆様、是非ご検討を。

*スコットランドの取り組みについては、大泰司紀之ら編著「エゾシカを食卓へ」に詳しく述べられていますのでご参照下さい。

B(被害対策)部会・技術小委員会報告 パート4(4月10日)……………事務担当 若菜千穂 「整備マニュアル、完成目前」

技術開発部会においては、昨年度から「エゾシカ被害対策整備マニュアル(仮称)」の検討・作成を進めてきましたが、各執筆者からの原稿もほぼ集まり、素案の形になりました。今年1月12日の部会では、新メンバーも加え、素案を検討しました。部会での検討結果を踏まえ、現在は完成に向けてマニュアルの修正作業を行っています。

① 札幌の女性・エゾシカ肉でO-157感染…12月11日

札幌市内の40代の女性が11月、腸管出血性大腸菌O-157の保菌者と判明した。女性は札幌市西区の飲食店でエゾシカの刺身を食べしており、同店に冷凍保管されていたシカ肉からO-157が検出された。エゾシカ肉からのO-157感染が確認されたのは、1997年に山形県の4人に次いで全国で2例目。

② 新得町・無許可の施設でエゾシカ肉解体の町職員らに罰金…12月29日

十勝管内新得町の収入役と町職員ら6人が、無許可の施設で販売を目的にエゾシカ肉を解体し、食品衛生法違反の疑いで書類送検され、町職員ら5人が帯広簡裁に罰金5万円から10万円の略式命令を受けた。収入役は猟に出ておらず、関与した可能性が低いとして起訴猶予処分を受けた。5人は当初、正規の施設でシカ肉を解体していたが、1997年から今年にかけては、無許可の施設で約70頭分を解体した。

③ 阿寒町・鉛弾規制後初のオオワシ中毒死を北海道環境生活部が確認…1月5日

昨年12月11日、阿寒湖南東の林道でオオワシのオスの成鳥が衰弱しているのを阿寒湖漁協職員が発見し、釧路動物園に運んで治療したが、16日に死亡。解剖したところ、胃の中から鉛製の金属物が見つかった。この金属物は発射された際に残る線条痕がないことから、**ライフル以外**の鉛弾を何らかの銃器で発射し、射殺された動物をオオワシが食べたと思われる。

④ 札幌・北海道大学キャンパスにエゾシカが迷い込む…1月11日



O-157感染

昨年10月には千葉県船橋市が開催した「第6回畜産フェスティバル」で料理の目玉である「やその家族から計27人のO-157感染者が出ました。死者は出ていませんが、船橋市は今年から牛の丸焼きを中止する意向です。

場合によってはエゾシカでもこうした事故が起こり得ますので、協会では安全なエゾシカ肉を提供できるようなシステム作り、解体・衛生マニュアル配布を進めているところです。



ライフル以外

エゾシカ猟での鉛散弾（散弾銃の鉛弾使用）は、代替弾の課題がクリアできないため使用禁止が先送りされていましたが、銅弾の輸入量が確保され、国内でも銅弾が本格生産される予定があることなどから、ついに今年秋の狩猟から禁止の運びとなりました。



ダブルクリップ

先号のニュース・クリップでご紹介した記事に関して、週刊新潮(12月7日号)に興味深い詳細がありました。

「エゾシカに車が衝突する事故は珍しくないが、こんな形で死者を出すとは…」と北海道警察も驚くのは、さる11月6日、釧路管内標茶町の国道で発生した事故だ。

釧路の会社員Aさん(28)の運転するライトバンが、国道を横切ろうとした体重110キロの牡シカに衝突。シカは対向車線へ吹っ飛び、そこへ走ってきた標茶町の会社員Bさん(54)が運転する乗用車のフロントガラスへ激突した。乗用車は路外へ飛び出し、Bさんは内臓破裂で間もなく死亡。シカは即死。事故の発端になったAさんは無事だった。

「あの国道には」してあり、運転者は速度制限、前方注意の義務がある。業務上過失致死容疑で送検できないが、捜査を続けています」と道警本部は言う。

だが、地元のタクシー運転手は、「シカの飛び出して来るスピードは落石同様の速さで、気づいたときは目の前にいる。天災に近い事故です」天災だとなれば、亡くなったBさんに自動車保険の保険金が支払われない。北海道特有の難解な交通事故だ。

《安心して買い求めいただける食材ストア》

新得町 上田精肉店

エゾシカ協会会員の上田精肉店さんでは、秋口に狩猟された鮮度・品質の良い鹿だけを迅速に処理し、マイナス45℃の急速冷凍で保管しています。そのため「くせが少ない」「やわらかい」といったお客さんの声がよく聞かれます。また、お店のホームページ (<http://storeueda.html>) には製品がおすすめの調理法付きで写真紹介されています。

協会の肉処理マニュアルにもとづいて精肉された、安全な鹿肉をご賞味ください！

- 価格例：ロース1キロ 5,500円(1本 約1.8~3キロ)
 もも100グラム 350円(1ブロック 約700グラム~1.5キロ)
 スペアリブ100グラム 130円(1ブロック 約400グラム/オリジナルスパイス付)
 味付けカルビ1キロ 2,800円(独自のタレで網焼きに最適)
 ハンバーグ150グラム×6枚 1,350円(あっさりして食べやすい)

※なお価格は予告なく変更される場合がありますのでご了承下さい。

●ご注文・お問合せは：電話&ファックス 01566-4-5107へ。

また、当協会のホームページ「蝦夷鹿亭」からもアクセスできます。<http://www.yezodeer.com>

(社) エゾシカ協会理事会および総会のご案内

平成13年度総会を下記の日程で行いますので、正会員の皆様はご参加頂きますようお願い申し上げます。

- | | | |
|-------------------|----------------------------|---|
| ■理事会 | 平成13年5月29日(火曜日)
午後2時~3時 | ホテル ポールスター札幌
札幌市中央区北4条西6丁目
電話011-241-9111
3F ハーモニー |
| ■総会 | 同日
午後3時30分~5時30分 | 同 |
| ■鹿肉試食会
(会費5千円) | 同日 午後6時~8時 | 4F しゃくなげ |

事務局だより

マニュアル3部作を道庁へ
食品衛生課担当者とともに普及を目指します

エゾシカ肉を「北海道の特産食品」として位置づけることは本協会の目的のひとつです。そのためにはクリアしなければならない多くの問題があります。最も重要なことは、解体処理場および解体と枝肉処理過程の衛生管理が厳重に実施され、安全な食肉としての評価を得ることです。すでに発行した「ハンティングマニュアル」のほか、「エゾシカ肉の衛生管理マニュアル」および「エゾシカ肉処理マニュアル」を発行すべく道庁食品衛生課と協議を行っています。なお食肉としてのエゾシカについては、食品衛生課も関心が高く、前向きに検討したいとの意向を示しています。

大成建設からインタビュー受ける

「エゾシカと人間の共存のため狩猟ビジネスの確立をめざす」などと語った大泰司会長のインタビュー記事が、大成建設(株)の機関紙「たいせい」1月号に掲載されました。

大成建設(株)は、「公益信託大成建設自然・歴史環境基金」で当協会の活動を助成しています。

協会ホームページ、リニューアル！

新たに「蝦夷鹿亭」、「エゾ鹿猟インフォメーションセンター」などが登場、ホームページがさらに見やすくなりました。皆様のアクセスと情報提供をお待ちしております。

<http://www.yezodeer.com>